



五
 文
 借
 讀

= 5
 2364
 5



天文俗談卷之五

庚申侍之事

或同世とて庚申侍とて庚申の夜をうらうら^{うら}り豆腐^{とうふ}
 ぶどう^{ぶどう}灸^ある^る三弦^{さんげん}淨瑠璃^{じやうるり}ち^ち六^む箏^{そう}鼓^こ雜子^{ざし}を^をや^や
 乃^な慰^{なぐさ}む^むて夜半^{よはん}後^ごを^をお^おび^び子時^{ことき}了^りて^て夜^よ寝^ねぬ^ぬ
 入^いを^をう^うら^らい^いる^る者^{もの}を^を日^ひ庚申^{こうしん}す^すら^らの^のこ^こと^と知^し
 邦^{くに}も^も古^{ふる}代^{しろ}時^{とき}々^々と^と足^あら^らへ^へて^て源氏^{げんじ}御^ご終^{しゆう}東^{とう}屋^やの^の巻^{まき}
 小^こも^も出^いで^でる^る漢^{かん}も^も不^ふも^も史^し漢^{かん}の^のち^ちを^をお^おび^びの^のゆ^ゆは^はり^り

こもきつたおぼろすはあううの事ふしてととふ家
乃事ぬりとさうぬ庚申経こいものなり世の種小日
人の腹中にニアあり人の大害をかす常に庚申の夜天
上小弁て人の悪事を帝釋小うつきふ故小庚申毎
小渡さるるバ尸虫天と下り事をえ下りこ夜半子時
をすらまば翌日辛酉の日ぬよかりぬくもの虫腹の内
よりぬるものわさるるんをきひて夜半まで寝さる
やうにするとり庚申はしりもわさるる身庚申と

かきて庚申とぬるとりとりする心かまば庚申すらと
り中庚申とりはたどきううや俗説辨小僧史略
と引ていよく近所の周郎乃地邑社多結ぐ庚申會
と守て初集り鏡鉦吹鳴し佛と唱讚と歌ひ衆人
念佛行道一或ハ絲竹と動一一夕睡らずとひて
三彭上帝に奏し罪と註し壽算と奪あると避也
然して此寧小道家の法かり往々無智の釋子入會
一小利の圖謀を會の其根本をも尋はず誤て

邪法よまひを行なふは你痛なむを哉や又また祖庭そてい夏苑げえんを引ひていえ
くえん三尸鬼さんしきの事こと佛經ぶつぎやう小出こでりしとし道家だうか不出いずこ
西峯さいほう松下氏しょうじの云いを引ひていくし守庚申しゅこうしんハ道家だうか修行しゆぎやう之の
法はかりし然しかるし小近代せうじんたい寂滅じやくめつ之徒の此夕このゆふ人ひと小代せうだいてし庚申こうしんとし守まりし
殆たいていどし佛寺ぶつじとしてし道觀だうくわんとし為なりし其その人ひととし惑まどえしとしふしとし
甚た一い符章ふぢやう妖事やうじとしするし者ものも亦また其利そのりとし慕まほてし明神めいじん
之傍の小このしりて淫祀いんじとしかす近幸じんこう往々むじむじりて書かとし讀よみし
理りとし知しのし人ひとありしりて何如いかんとしらせんしやこうしとし世よ事じ

由よし丁てい久く忌業きごふのしりり存ぞん諸説しよせつとし述のぶしがし一い忌きがしふし
其その身みにし悪事あくじありし腹中はらちゆうのし尸虫ししちゆう升のぼりて天帝てんたいにありしとし
としもし天てんのし照夜しょうや曇とんりしんや世よとし乃すなはちし人ひとにありしとし庚こう
申しん経きやうよりのし事ことはしたしともしありし比ひ只ただ庚申こうしんのし夜よもし深夜しんや小こ
つつりしとし獲えるし事ことこのし思しひし竹たけもしとし返かへりしもしぬく感かん
ぶぶとし酒者しゆしやとし興きやうをし催もよほすしとしふし夜よ庚申こうしんのし律りつとし
ちちのしりしとし信しんどんのし人ひととしちち罪つみかし一い只ただ子このし人ひとにありし祭まつり
ままのしもしありしとしてとし笑わらむしりしふしとし先まにありしとしもし祭まつり

まかり嘗古昔かゝられたら相あり貞丹尸虫のこゝ
で注釋やごとくして私を其の心よして守庚申を催
とあつた人の別して仕友人の風と小もたうねを
事持くし身分ふらぬしと地事をしてしを
自君小若さく地を以禦阻正道と大事とせず私
欺すり変とか丁座うかまのふて言語を以しきり思
人ぬり君子も其獨を懐じといへく其意を誠し其
心正しくせむ腹中の尸虫何時升天して天帝

小昔ることもあつて一有るは腹中の虫の物と天小
うつとつとあつたり腹のこりう虫のあつたをいふと
早やうのういふがさつと思ふと懐まづん天の
照渡まてゆく地さく人あれをゆく地別
何があつていふらうと庚申乃夜やうのういふは
こも小虫の身は右の事をいふ
あつていふ人持のゆゑして庚申の市を猿田彦令に
ていふ殺伐の意もあつていふは懐をまをさう

わしはあつていふともきくは海に事あり

女護男之事

或向いそむびしうの蛮國の海中に女護の島あり
しそまわらそ男子の世の男は女南風を陰門より
うらまは子と妊といひはふさやのありもあは
其の男乃方角日本ありづらむらうの行程いそ
らりやあまはこしこ日男の事いふ悪が著述
するに海の写真に男國をわたりしふ秘本あり

其の書にりりしあはたきとも言はるもわさか
まふそ乃わらゆとがらんやういふ女護の事
を今ふてハ日本の支配しるはるて蛮國よりと帝
都よりハ東南よりうら東國伊豆列の下田より海と
と南ふさると六十餘里ありて八丈島より北は
あれいしへの女護男あり今も徳古のころか人
ちりり住よりしと男女とも世にこれごとく文華
到りて繁昌し男備は職出す世ハ八丈島と

いさしけり河代史所のり 後漢書東夷傳小波中
有女國無男其國有神井國之輒生子也本州細
目鹽麩子の附録小いしく枝桑乃東女國のりとも
あり又北条五代記小とびーの女國を今の八丈一ぬ
かうゆとらーを説き北の證多きなり

石腦油之事

西國順禮三十三所の終る濃洲 谷汲寺小岩の間
より油涌出ると伝前の燈明の用小豆より一節記り

かくしやゆいりさやれ事もゆりゆふん
曰谷汲寺乃油を以力の益無減して涌出るとか
福にも夫を本州細目所謂石腦油のり以の功力も
かすさる 甜後灯頭城郡松代村に地中より油は
出一口小こ井程宛れ用也す下して石付と草生水
こ云飯地より錢石を採り又佐の膏藥のり一燈
すしをけのやうすふてあぶあかきバウとゆふ
やあし燈火小すらんえすくこゆりそお大荒

火等もふ地中火脈不揮りてさうなり富士の
濱川獄等の燃きふひ皆因に漢土ふても蜀中れ
火井のきふひ美ほせのきい多し一温泉がふの理も
古の書も小かき一也この事の中をわらひたり
以て知るも居行ふ薬選を引てくらく
裁きもバウあまことかきざ若波の波と派記の色
仏力ハあし秘とも比ふもの多し事なりと知に

五更之事

天鼓の謡よ五更の一点もも鳴りし事なり五更とハ
寅時としか一息とハ世より寅乃一点も更点の事
如何日五更とハ凡寅時のし所なりとも更点の割
と別あり昏六乃正刻なり明六乃正刻をの六時
と五更の惣數こするや一更も一時二分死かり昏
六の正刻なり後一時二分の間は初更と一一時二分
了あり二更とかり二時四分まで二更終り三更四
更と一時二分死と距て四時八分まで四更終り四時九

分の交五更の一点めり寅正刻の初めり五更終る
六時満明六の正刻とつるに扱一更と五点後に割
一点二点五點と一して毎更終る是より一更の終る辰
刻後二更の終る亥正刻後四分三更の終る子時半後四更
の終る寅正刻前より晝とついで解すはバヤ會や
どり色どなもめりてハ終る思ふことなり日東通
曆考の書にも晝解りり更点の割も長短の如く
其時々の一夜の割めりと知る

應帝亞之事

東部四系を祇等の内施可小んぜん年して煙草入
煙管筒草の中忌考の類のおと高小家あり
今も何うや變りやと云はせのがひなる今も
あつて何れも先づき家号まで何やうんおわ
ちやうにきく如いうねるおの家号あるやそのねとこれ
曰去を先づきした事くし西め何れものかあるはと
一色りて屋号あり去は天竺より列の若あり

出くる屋号形り日本九州の地より千里の彼海峽
即て南京呉越の國の如くはけりそもより千里二
千里の道路を距て唐土を西へけり也也も千里
より天竺も又唐土より去地廣闊にして五天竺あり
往古より印度よりけり也の西印度の地小應帝
亜との地より北も莫卧思と壤と接て大國に
天竺より又西の西洋の諸番國の會する也也
して繁昌の地かり也の列より出る産物のうち

小皮革の極品移ぐと出す番國あるは其の
へり去る也もつくと思へん也んの中もかといへる
彼應帝亜より出る革の中もつとありべし也
其の右より出くる屋号かきり必せん去るに
らず桑人の重宝といふほどの桑磁といふもの
も桑人の方にけり也の字と正字として書や
ども往古も希小舟戸の桑磁と外そくたに小舟戸
もつと見ゆる事あり桑磁が小舟戸の如く

あつし海に控さ申のやうに北より南にあり右云應
帝亜と西印度の地あり南印度東印度各列々あ
り五天竺のこゝから今もそとへくの列の右にこゝらふ
陸古と印度といひ又と天竺といふ地はの印度より
来る系統といひそのから日おより印度の地までも
いづこへゆても海陸凡三四千里のち北か北は海に
あつて大切なるものも北極あり其系統は北極
よりゆきて金銀車の路とやらをゆくあつし海に北極

ふまは出るとる

小人考之事

小人考之事
世に小人者といふもの如方角いびぬりや曰天
竺の北にあり韃靼の西方に没厨箇未突國といふ
大國あり其の國の東北の海濱に小人國あり矮人國
といふ國人男女長三尺より五尺ありて子を生じ
八歳ありて老人となり常に瘠よりくろくありて
と掘て居住す夏三月を壤とてくせり丁羊とて

乃おとくに騎^ウこ^ハ玉^ノの^アく^ハ家^ノ詰^コ小^モ出^ニ才^圖會^ニに
 も長^人國^小人^國の^面と^裁す^然ま^じも^抄の^玉々^々
 設^厨筒^未突^國の^為小^滅亡^セし^もし^もや^采覽^異言^ニ
 考^ノキ^一し^る形^ハ近^代の^書小^ハ玉^ノの^法法^カ一^ニ思^ガ
 吾^國愛^抱徳^とみ^まぶ^蛮國^八十^餘玉^唐土^天竺^朝鮮^琉球^とか^の玉^風と^知の^も

天文俗談卷之五終

博物筌 改全一冊

此書ハ天地日月雪霜ノ理ヲキ國郡山川來曆ヲ記シ年々長曆并註日
 降時御武鑑年中行支神社佛閣神祕縁起諸職諸藝流義始末
 佛家十宗ノ起リ并流流公家武家學者歌道僧尼隱士雅樂
 茶道能筆 画工都テ和漢ノ名譽ノ人物草木器物等ノ出所
 并異名和漢ノ年号年數等ヲ悉ク記ス誠ニ奇々妙々ノ書也

錦囊智術全書 全七冊

知惠ヲ以テ重キコトヲ輕ク出來ナラヌノ心易ク調フ
 奇妙ノ秘密秘傳ヲ書アラハス書也日々此書ヲ用ヒテ
 事ヲナサハ徳益廣大ニシテ万室ヲ得ルノ書也
 實ニ人家日用ニ効有事トモ悉ク集

妙術博物筌 全七冊

此本ハ秘法秘術妙葉等事外人家日々入用ノ事ヲ集メ
 イロハ分ニシテ見安クスル先①ノ部ヲ見レハイホヲ又ク法又ハ
 印内スミノ仕ヤウ衣服シミヲトシ法イケ花ノ仕様右ノ外
 鎮火用心車トテ火サイヲ分ル秘術又火サイノ節万支
 心得家内ノカタツケ様等委ニシク記ス

大阪北久太郎町四丁目

書林

河内屋新治郎發行

